

アド	理数	多様
○		

改革先導拠点校① 新庄神室産業高校

～地域資源から価値を創出する実践的な人材の育成～

(全日制/農業科・工業科・商業科)

- 最上地域においては、最先端のDX機器を活用し、地域資源から新たな価値を創出できる実践的な人材の育成が課題となっている。特に、県立新庄神室産業高等学校においては、地元に着し、地域産業界を支える人材の育成が急務である。
- 農業・工業・商業分野における最先端のDX学習環境を整備するとともに、地域の産業人材との交流機会の創出を図る。また、地域産業の魅力を実感できる取り組みを通して、高度なDX人材が地元に着するパイロットケースの創出・普及に取り組む。

人材育成の現状・課題

- 最上地域の人口は64,602人であり、2040年には現在から8.54%減少すると推計されている。また、令和6年における生産年齢人口（15～64歳）の割合は50.4%であり、全国平均の59.6%を下回っている。人口減少と生産年齢人口の縮小が進行している。
- 新規高校卒業者の県内就職率は77.2%であり、前年度から7.8ポイント減少している。若年層の県外流出傾向が強まっており、地域産業を支える人材の定着促進が求められている。
- 同校は、最上地域で唯一の産業系専門高校であり、農業科（食料生産科、農産活用科）、工業科（機械電気科、環境デザイン科）、商業科（ビジネス創造科）を3学科を設置している。同校は、地域産業を支える担い手を継続的に育成する中核的な教育機関として重要な役割を担っている。

具体的な事業内容

【本校における改革目標】

フィジカル（現場での実践）とデジタル（高度なデータ分析）を融合させた学びを通して、**次世代の高度DX人材を育成・輩出する高校**を目指す。

【教育改革の内容】

実験・実習に活用する**各学科の施設・設備を高度にアップデート**し、地域資源から新たな価値を創出できる実践的な人材を育成する。そのため、高大連携授業や実務家教員による**起業家教育プログラムを実施**する。

【施設整備の内容】

「SHINJO-Kラボ」を新設し、地元産業界や大学との連携のもと、フィジカルとデジタルの融合を目指す高度DX人材育成のためのハブとする。また、**農業・建設DX実践施設を新設**し、建設機械の遠隔操作やドローン制御を学ぶ実践的な学習環境を整備する。さらに、既存校舎を改修し、**ホームルーム教室や職員室の高度DX化**を推進する。

【他校への普及方策】

高度化した実験・実習施設を活用。高大連携による探究活動に参加する。

協力・連携体制

協力校	上山明新館高等学校、左沢高等学校、村山産業高等学校、置賜農業高等学校、庄内農業高等学校
主な連携機関等	東北農林専門職大学、山形大学農学部、山形県農業総合研究センター、山形県工業技術センター、地域産業界等

改革後のイメージ

